**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和5年10月**

**観音菩薩**

**大本山總持寺　参禅室主事　ゲッペルト昭元師**

観音菩薩は、生きとし生けるもの全てを救いつづけてくださる仏さまです。

瑩山禅師さまのお母さまは毎日お経を唱え続けました。

「ありとあらゆる人のためになる子が生まれますように」

熱心に拝むお母さまの影響を受けた瑩山禅師様は、三歳のころ土遊びでみごとな観音さまをつくっていたそうです。そして、五歳になるとお母さまが唱える観音経を諳んじるようになりました。

観音経の中、「悲観」という言葉があります。「テストの点数が悪くて悲観した」とか「悲観的な性格」というように使われる「悲観」という言葉は、「楽観」の反対語のようにして使われています。実は、この「悲観」という言葉には、仏教の深い教えが含まれています。

観音菩薩の「五観」をご存知でしょうか。観音経の中に「真観」「清浄観」「広大智慧観」「悲観」及「慈観」と、五つの語句があります。観音さまは、この五観をもって私たちをまもってくださるというのです。

「真観」 真実を観ること

「清浄観」 汚れなき目で正しい判断する

「広大智慧観」 広大な智慧をもって片寄ることなし

「悲観」 衆生の苦しみを抜く ［悲しみ］を観る

「慈観」 楽を与える ［慈しみ］を観る

「悲観」とはその４番目の「私たちの苦を除いてくださる作用」のことです。

「悲」には、悲しみ・苦しみを抜くという意味があります。仏さま・菩薩さまの慈悲の心を指す言葉です。つまり、共に悲しみ、共に喜んであげる心、これが「慈悲心」です。

子供が悲しい思いをして、帰宅し、母親に事の次第を告げた時、母親が一緒に悲しんでくれれば、その悲しみは半減するでしょう。また、嬉しいことがあった時は一緒に喜んでくれれば、その喜びは倍増するはずです。

観音さまの慈悲は、共に悲しむ母親の悲観であり、共に喜ぶ母親の慈観です。

言い換えれば、観音さまのハタラキは、だれでもできます。一緒に悲しんで、一緒に喜ぶ。そういう慈悲心をもって、まわりの方々と過ごされたらいいと思っています。

皆様に観音様のこころがとどけば、たいへん嬉しいです。